

令和3年度第1回斜里町総合教育会議議事録

I 開催日時 令和3年9月22日(水)

開会 午後3時55分

閉会 午後5時25分

II 開催場所 斜里町役場大会議室

III 出席者

【構成員】

斜里町長 馬場 隆

斜里町教育委員会

教育長 岡田 秀明

職務代理者 長谷川 宏文

委員 高橋 美恵子

委員 門田 眞由美

【事務局】

総務部長 増田 泰

教育部長 馬場 龍哉

企画総務課長 松井 卓哉

生涯学習課長 菊池 勲

IV 内容

1 開会

2 町長あいさつ(要旨)

・現在、北海道に緊急事態宣言が発令されているが、宣言下においても学校の一斉休校措置等を行わず実施することができて良かった。学びの機会を失うことの無いよう配慮してきたところである。

・町民のワクチン集団接種については5月10日から65歳以上の高齢者を皮切りに、段階的に12歳以上の全町民を対象に実施し、8月11日に終了することができた。

・町の教育面や感染症対策など、様々な事項について皆様のご意見を伺いたい。

3 意見交換

(1) 新型コロナウイルス感染状況及びワクチンの接種状況について

(2) その他

4 詳細内容

(1) 管内、町内における新型コロナウイルス感染状況及び斜里町におけるワクチンの接種実績について資料に基づき説明を行った。

●質疑等

○ワクチン接種体制について

・高橋委員：町民だけでなく、町内事業所における町外者や外国人雇用者についても積極的に接種を実施し、感謝している。

・町長：接種体制についてはシミュレーションを行いながら、職員が試行錯誤して体制を構築していった。また、ワクチンを確保するため、積極的な接種とその実績を即座に報告することによって、次なるワクチンの確保を国に働きかけていった成果であると考えている。

・教育長：年齢別の接種割合において、17～19歳の割合が70.37%と最も低い、住民票は町内にあるものの実際の居住地は町外であり、その居住地での接種が進んでいない実態もあると考えられる。

・長谷川職務代理者：この度のワクチン接種で感じたことは「斜里町は真面目な方が多い」ということである。自分が感染しないためだけでなく、周囲に感染させないためにワクチンを接種する。そういった、相手のことを考える優しさが町民の根幹にあると思う。

これまで「斜里町らしい教育」という言葉を使ってきたが、互いに思いやる気持ちが教育にも活かしていければ良いと考えている。

○情報周知の取り組みについて

・町長：感染者に関する情報について、出来るだけ早く周知したいという気持ちで取り組んでいたが、保健所の発表や個人のプライバシーへの配慮など、出せない部分もあることは事実である。発表の仕方については道の本庁とも協議し、最大限公表出来る範囲を拡大させながら行ってきたところである。

町の公表の仕方について、ご意見を伺いたい。

・長谷川職務代理者：保育所における感染の際、一報で保護者に周知した段階で情報は瞬く間に広がっていく。一報から全体周知までに時間が空いてしまうと、不安になる人が増えていることを感じた。

・教育長：未公表の状況が発生すると、個人情報を入力するため詮索をする方が現れる。個人名をリスト化してSNSに掲示する悪質な例もある。

・町長：他者への非難を含め「もし自分が感染したら」というように、自分に置き換えて考えることが出来ない状況があることは残念でならない。

○コロナ禍における学びの機会の創出について

・町長：挨拶でも述べさせてもらったとおり、学びの機会が失われることは避けなければならない、このことが「不要不急」にあたるとは思わない。

今回の緊急事態宣言において、町の施設を 20 時までの時間短縮とし休館にしなかったのは、その考えによるものである。

・教育長：事業の中止が相次ぐ中、苦しい状況においても、どうやったら実施することが出来るかを職員一人ひとりが考えながら実践してきた。

その結果、参加された方から「開催してくれてありがとう」と感謝の言葉をいただくようになった。そういった、お互いを思いやる優しい心が育ちつつある。

・高橋委員：今年度の水泳大会を無観客とし、オンラインで中継しながら開催したが、好評の声も多かった。やめるのは簡単だが、実施に向けて考えることが大切である。

・長谷川職務代理者：現在の町内学校における校長先生は、非常にリーダーシップのある方が揃っていると感じている。コロナ対策や教育の取り組みについて、積極的に進めていただきたい。

○町の財政状況について

・長谷川職務代理者：コロナ感染の状況は先行き不透明な部分も多いが、ワクチン接種によって明るい兆しも見えてきた。

一方、昨年 11 月の当会議において、町の財政見通し及びアクションプランについて説明を聞き、ひっ迫する財政面にショックを受けた。

町内の財政状況においても、過疎債というワクチンをいかに接種することができるか期待している。

・総務部長：こちらのワクチンについては副反応が起きないように、適切に処理していきたい。

・教育長：議会でも総合体育館の建設などを期待した声があったが、過疎債の活用を含め、意見を聞いている部分があれば伺いたい。

・高橋委員：建設施設については、モノが出来て完了ではなく、それをマネジメントする人がいて、活用方法について考えていかなければならない。

体育施設についても「総合体育館」といえば聞こえはいいが、目的が「競技会」なのか「健康増進」なのかを明確にしないと、効果を十分に発揮することは出来ないと考えるところであり、実際に他の自治体の例でもそのような事例は存在する。

5 閉会 午後 5 時 25 分